

近畿地域でリーサスを活用した政策立案ワークショップを開催しました
～福井県永平寺町、滋賀県湖南市、奈良県王寺町、和歌山県橋本市が政策案を公表～

平成30年4月
内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局
内閣府地方創生推進室
経済産業省近畿経済産業局

近畿経済産業局にて、管内4自治体で地方創生に携わる職員等を中心に「地域経済分析システム（RESAS）」を活用した政策立案ワークショップを下記のとおり開催しました。

近畿経済産業局では「RESAS分析に頑張る自治体応援事業（RESAS分析モデル構築ハンズオン支援）」により、希望する自治体等に対してRESASの分析結果から施策を導き出す手法等についての助言・アドバイスを行っています。本ワークショップは同事業の一環として実施したもので、「官民協働による地域の稼ぐ力強化」を共通テーマに専門家である立命館大学経済学部客員教授 金井 萬造氏の協力を得て、各自治体の産業・観光・まちづくりにおける課題を抽出し、意見交換を行いました。

自治体が地域経済分析に基づいた政策立案の重要性を考える契機となり、RESASの普及促進にもつながりました。

記

1. テーマ : 官民協働による地域の稼ぐ力強化
2. 日時 : 平成30年1月31日（水） 13:30～17:00
3. 会場 : 大阪合同庁舎1号館 第1別館3階会議室
4. 主催 : 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進室、
近畿経済産業局
5. 参加者 : ・永平寺町・湖南市・王寺町・橋本市の職員
・立命館大学 経済学部 客員教授 金井 萬造 氏
・近畿経済産業局管内の市町村職員
・金融機関職員
・内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局職員
・経済産業省職員（地域経済産業グループ 地域経済産業政策課）
・経済産業省 近畿経済産業局職員（局長、地域経済部長、地域開発室） 等
合計 50名
6. 議事次第 : ①自治体職員によるRESAS分析結果発表
②有識者によるデータ分析結果発表
③意見交換
④総括

1. ワークショップ実施の背景

- 地方創生の折り返し地点でもある今、官民連携の重要性を背景としてワークショップを開催し、4自治体が立案した、官民が協働し、地域の稼ぐ力を強化していくための政策について、RESAS や他の統計データを活用した分析をもとに検討した。

2. 発表内容

① 滋賀県湖南市

■ 現状分析

付加価値額の6割以上を製造業が占める産業集積地だが、工場等の拡張余地が少なく移転懸念がある。

- 湖南工業団地を中心とした工業のまち。製造業の内訳をみると、滋賀県や全国と比較して企業数では「金属製品」「プラスチック製品」、従業員数では「鉄鋼業」「金属製品」「プラスチック製品」、売上高では「鉄鋼業」「金属製品」「輸送用機械器具」、付加価値額では「化学工業」「鉄鋼業」「輸送用機械器具」の比率が高い。
- 付加価値額の特化係数では「鉄鋼業」「化学工業」「プラスチック製品」「窯業・土石製品」が上位。化学工業を除くと従業員数の特化係数が高い。
- 農業は兼業農家が多く水稻作が中心。近隣自治体と比較して農業産出額や付加価値額の総額は少ない。一方で食料品製造業、種苗メーカーの研究所立地、鈴鹿山系からの伏流水を利用した酒造などの地域特性に恵まれており、6次産業化にポテンシャルがある。

(1) 地域経済分析

売上高、付加価値額からみる産業構造 ①

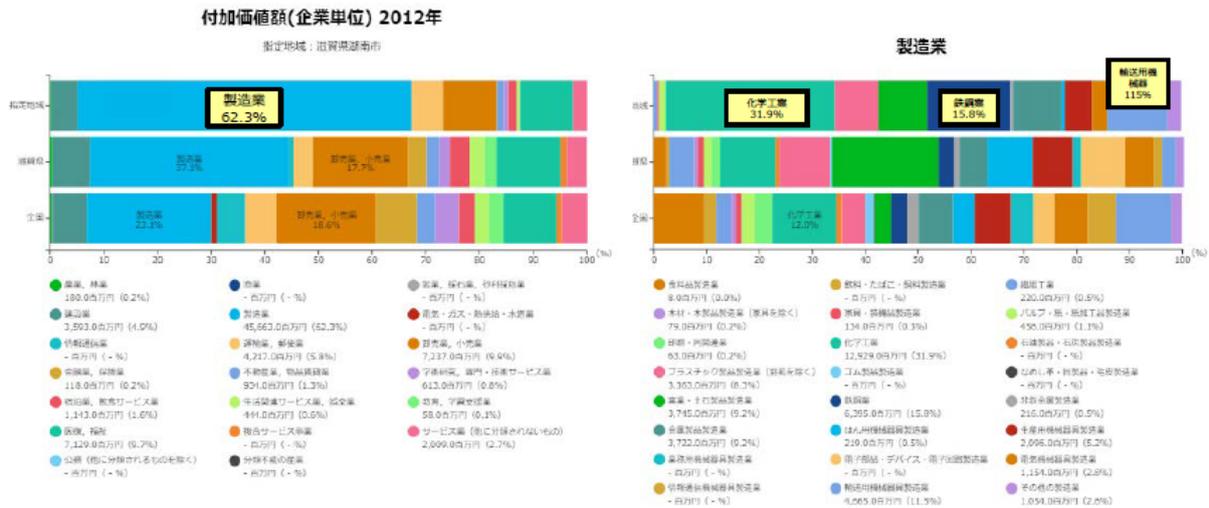
- 売上高は、製造業の割合が65.1%で、滋賀県や全国と比較して圧倒的に比率が高い。
- 製造業の内訳をみると、滋賀県や全国と比較して鉄鋼業、金属製品、輸送用機械器具の比率が高い。



(1) 地域経済分析

売上高、付加価値額からみる産業構造②

- 付加価値額は、製造業の割合が62.3%で、滋賀県や全国と比較して圧倒的に比率が高い。
- 製造業の内訳をみると、滋賀県や全国と比較して鉄鋼業、化学工業、金属製品の比率が高い。

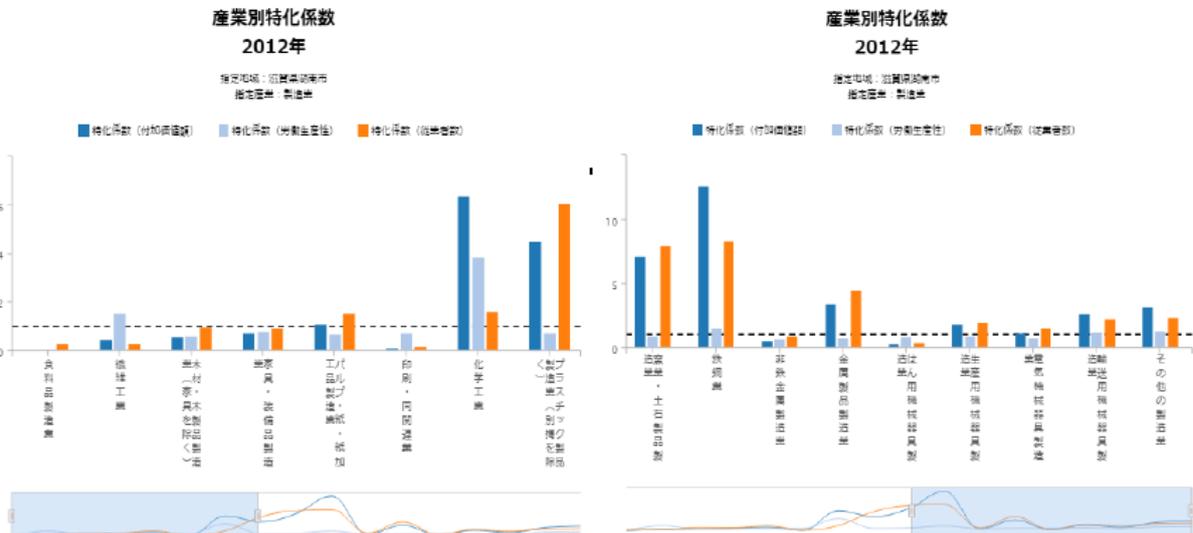


【出典】総務省「経済センサス基礎調査」再編加工、経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工

(2) 地域経済分析

稼ぐ力

- 稼ぐ力分析により、各産業の①付加価値額、②労働生産性、③従業員数について、特化係数を表示。
- 付加価値額の特化係数は、鉄鋼業、窯業、化学工業、プラスチック製品製造業が優位。



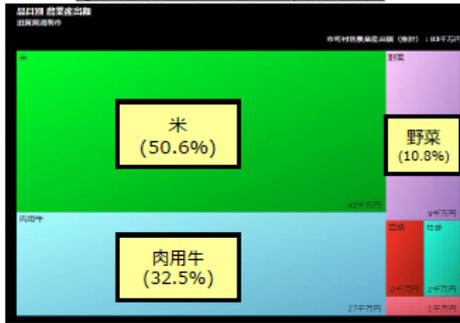
【出典】総務省・経済産業省「平成24年経済センサス活動調査」再編加工 11

(3) 地域経済分析

湖南省の農業

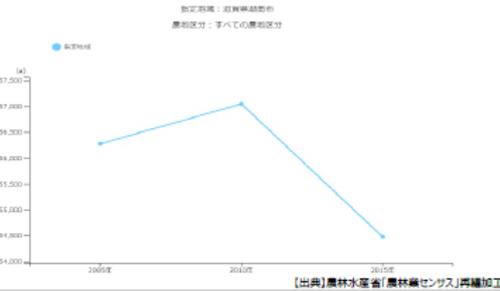
- 品目別農業産出額は、①米 (50.6%)、②肉用牛 (32.5%)、③野菜 (10.6%) が上位である。
- 耕作地総面積が小さいことから、近隣自治体と比較して、農業産出額や付加価値額の総額は少ない。

①品目別農業産出額 (湖南省)



【出典】農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」

③耕作地面積



【出典】農林水産省「農林業センサス」再編加工

②農業産出額比較



【出典】市町村単位 農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」

④農業付加価値額比較



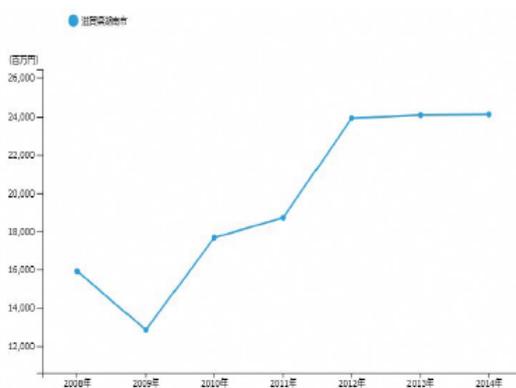
【出典】総務省「平成24年経済センサス-活動調査-」再編加工

(4) 地域経済分析

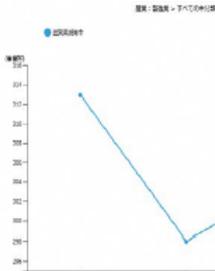
農業を取り巻く地域資源

- 本市の食料品製造業は、製造品等出荷額が24,158百万円で県内2位。
- 湖南省の食料品製造業における1事業所当たりの平均従業員数は60人と平均値をはるかに上回っている。

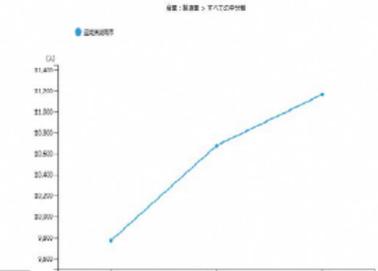
①製造品出荷額等



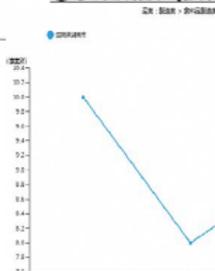
②事業所数 (製造業)



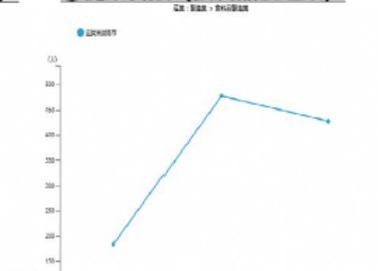
③従業者数 (製造業)



④事業所数 (食料品製造業)



⑤従業者数 (食料品製造業)



製造品出荷額等順位	
江業市	
順位	金額
2位	270.0

【出典】経済産業省「工業統計調査」、総務省「平成24年経済センサス-活動調査-」再編加工

■ 施策提案：特色ある産業を生かした湖南省型産業モデルの創出

素材型産業や食料品製造産業等の産業集積や農業関連のインフラや伝統産業、地域特産品等の地域資源を活用し、域内調達や域内外への波及効果の大きい産業分野に挑戦する研究・開発等の新たな事業化を支援。

- 地域未来投資促進法の基本計画を策定し、成長ものづくり分野、農林水産分野における高付加価値の創出とそれに伴う地域事業者への高い経済的波及効果、さらには地域経済における稼ぐ力の好循環を実現する。
- 直売所、レストラン、情報発信機能を備えた拠点施設「みらい公園湖南」を整備し、地元農産物の生産・需要拡大、工場や研究農場と連携した6次産業化、農産品の販路拡大や工業製品・技術等の域外波及を創出。
- 「湖南省企業ガイド」により地域経済を牽引する事業者のオリジナリティや強みを発信し事業者間・産官学のマッチングを促進するとともに、雇用拡大や人材育成にもつなげていく。

② 奈良県王寺町

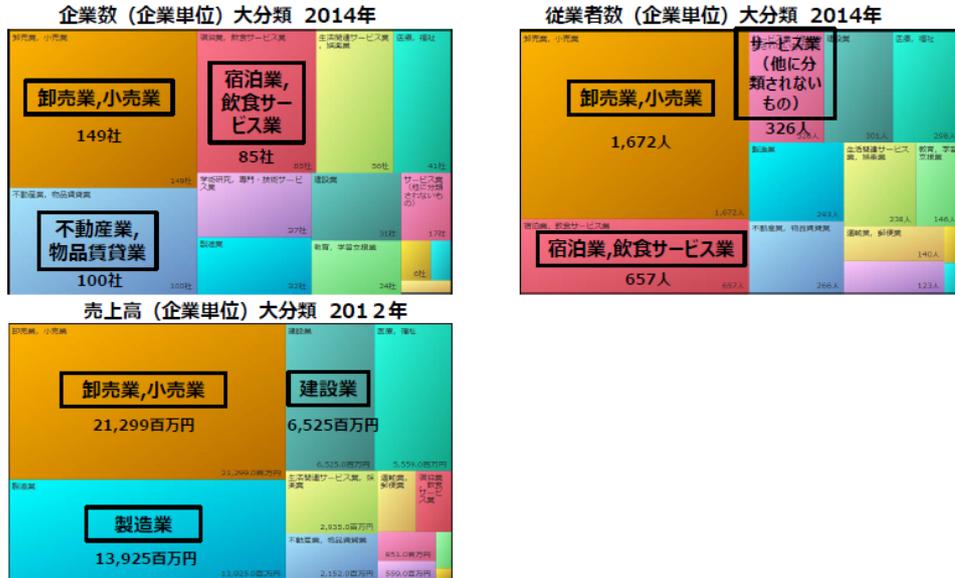
■ 現状分析

乗降客数の多いターミナル駅を有し住宅地、商業地として発展してきたベッドタウンであり足元の人口は増加しているが、今後の人口は減少傾向で推移する見込み。

- 大規模な住宅開発やマンション建設があったことから平成 22 年から平成 27 年にかけての人口増加率は 3.8%と奈良県内トップ。しかしながら住宅建設可能な土地には限りがあり、国の人口推計からも将来的に人口減少局面が到来すると考えられることから、中・長期的な地域活力の維持・向上のための施策検討が課題。また「7.01 k m²という限られた町域（可住地面積は 4.62 k m²）」、「自然に恵まれた住環境」、「大阪のベッドタウン」といった環境から、大きな企業の進出や誘致が困難であることを考慮する必要がある。
- 産業構造では「卸売業、小売業」「宿泊業、飲食サービス業」が中心となる。
- 「飲食料品小売業」「飲食店」の付加価値額が高いが労働生産性は低く、労働生産性向上のための取組みが必要である。
- 平日の夜間（20 時）の滞在人口比率は 1.10 倍であり、周辺市町村居住者がターミナル機能を持つ王寺駅に多く滞在している。
- 奈良市付近を観光で訪れる人は奈良県西部エリアに周遊しておらず、西部エリアの訪問者も法隆寺以外の観光資源に周遊していない。

(1) 王寺町の主要産業（大分類）

○企業数、従業者数、売上高（大分類）から、「卸売業、小売業」、「飲食サービス業」が主要産業といえるものの、飛びぬけて特化している主要産業があるとはいえない。

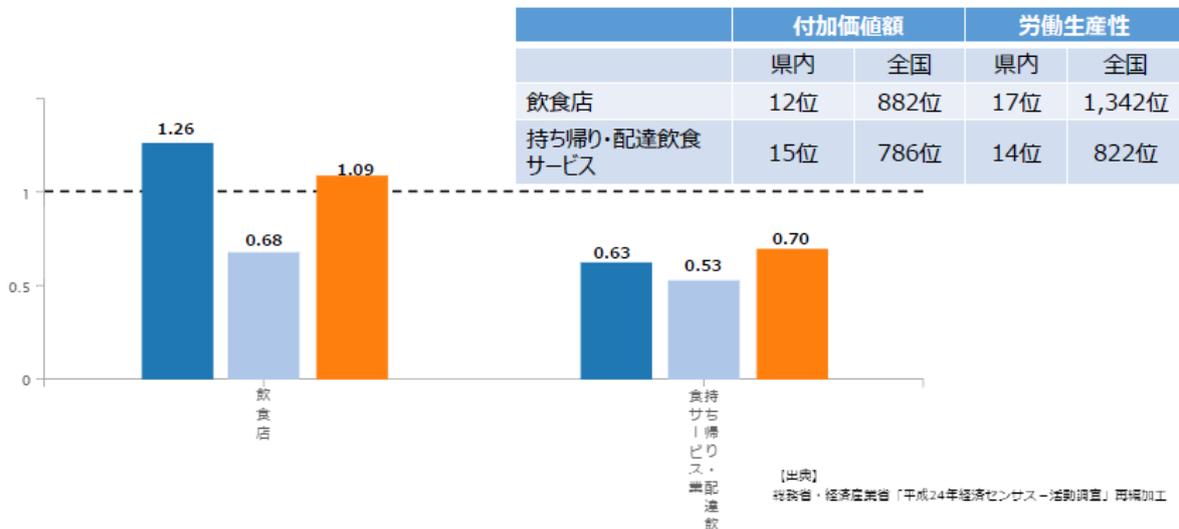


(2) 産業別特化係数 - 宿泊業、飲食サービス業 -

○「宿泊業、飲食サービス業」は、「飲食店」、「持ち帰り・配達飲食サービス」ともに労働生産性の特化係数は低い。宿泊業の統計データはない。

産業別特化係数
2012年
指定地域：奈良県王寺町
指定産業：宿泊業、飲食サービス業

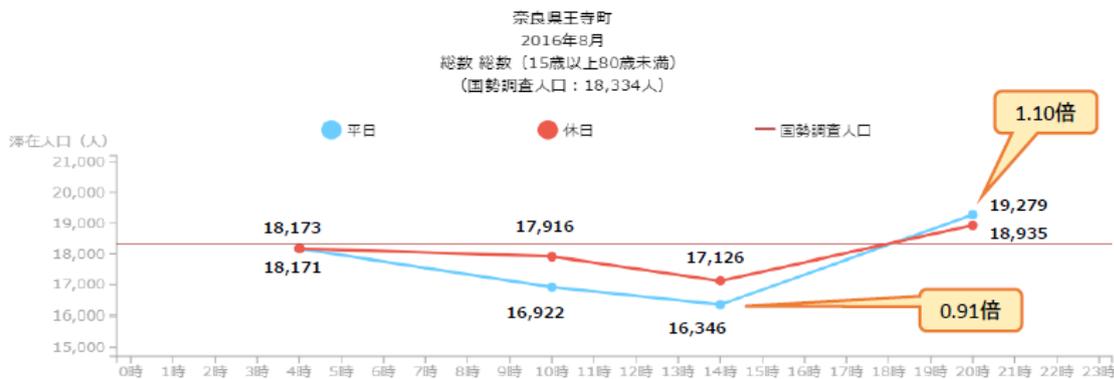
■ 特化係数（付加価値額） ■ 特化係数（労働生産性） ■ 特化係数（従業者数）



(3) 王寺町の滞在人口（時間別推移）

○王寺町には平日、夜間（20時）の滞在人口率は、1.10倍となっており、周辺の市、町（三郷町、斑鳩町、河合町、上牧町、大阪府柏原市・八尾市等）の居住者が滞在している。
 ○一方で平日昼間（14時）には町外への通勤、通学者の流出により、滞在人口率は0.91倍となっている。

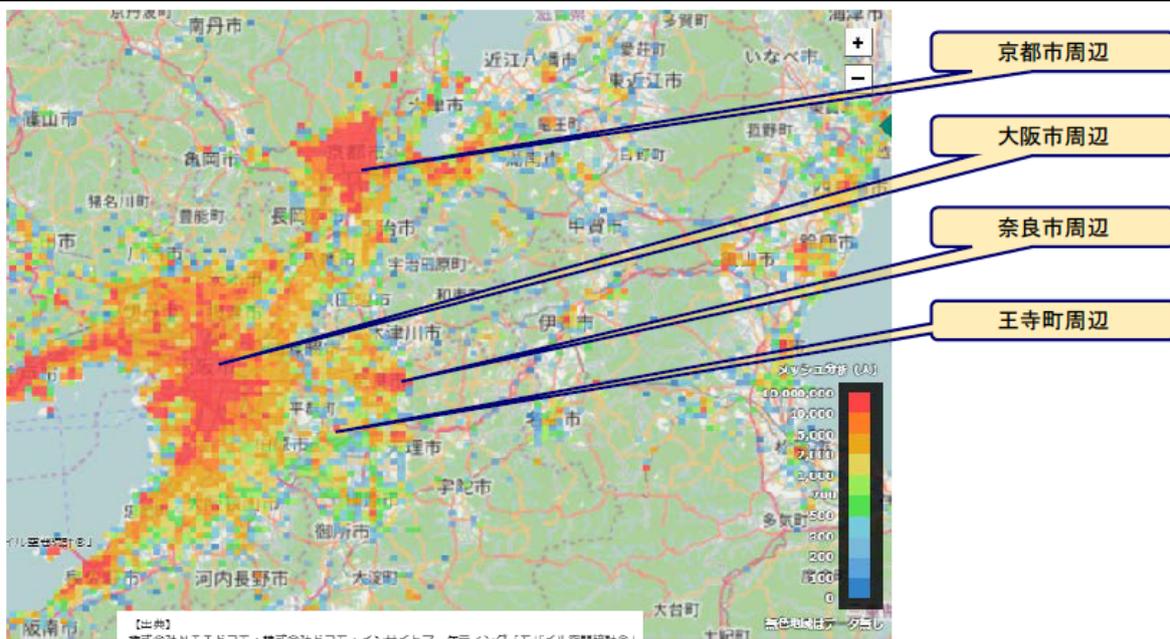
滞在人口の時間別推移



【注記】
 滞在人口率は、滞在人口（株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計」）÷国勢調査人口（総務省「国勢調査」仮速報人口）で表される。
 滞在人口とは、指定地域の指定時間（4時、10時、14時、20時）に滞在していた人数の月間平均値（平日・休日別）を表している。
 【出典】株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計」仮速報（平成27年度調査）

(4) 関西を訪れた外国人の訪問先

○外国人メッシュ分析（平成27（2015）年8月～平成28（2016）年7月）では京都市周辺や大阪市周辺を訪れた外国人が奈良を周遊しておらず、また、奈良市周辺を訪れた外国人は、王寺町周辺や奈良県南部、東部を周遊していない状況が伺える。



(5) 西和地域・王寺町周辺エリアにおける観光の動向

○ Bエリア内における目的地は法隆寺が圧倒的に多い。その他はショッピングモールやハイキングコース、公園などであり、法隆寺を除けば他に存在する観光資源に周遊していない状況がうかがえる。

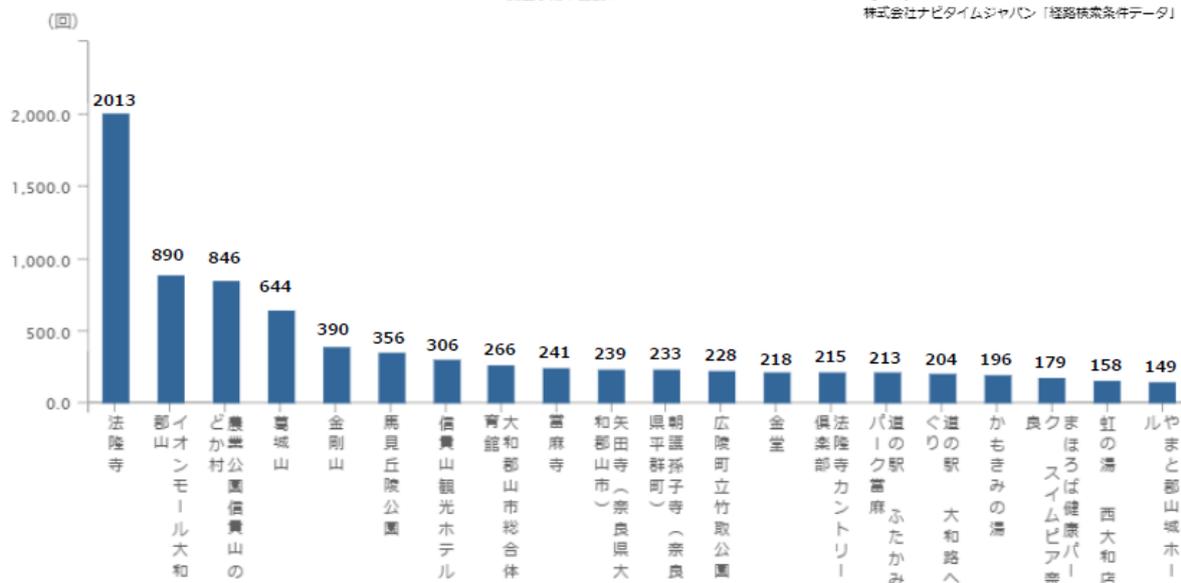
指定地域の目的地一覧

指定地域：奈良県王寺町、奈良県大和高田市、奈良県大和郡山市、奈良県御所市、奈良県香芝市、奈良県葛城市、奈良県平群町、奈良県三郷町、奈良県斑鳩町、奈良県安堵町、奈良県川西町、奈良県三宅町、奈良県田原本町、奈良県上牧町、奈良県広陵町、奈良県河合町

表示年月：2015年すべての期間（休日）

交通手段：自動車

【出典】
株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」



■ 施策提案：「西和地域のターミナル」「法隆寺以外の観光資源」を生かしたにぎわい創出政策 RESAS による現状分析を踏まえ、以下の施策を検討。

- 王寺駅周辺エリアに都市機能を集約し、西和地区の拠点としてにぎわいのある中心市街地の形成を図る。その際に街区の再編や高さ規制の緩和による低未利用地の有効活用、新たな商業・業務（企業支援、テレワーク等）・居住・医療・福祉機能の集積、王寺駅電車留置線部を含む駅周辺の再整備について検討を行う。
- 王寺町周辺へ宿泊施設を誘致し、王寺駅を基点とした周遊型観光を推進する。その際には町有地の活用、出店に対する支援策を行うとともに、事業者に対して積極的な情報提供を行う。

③ 和歌山県橋本市

■ 現状分析

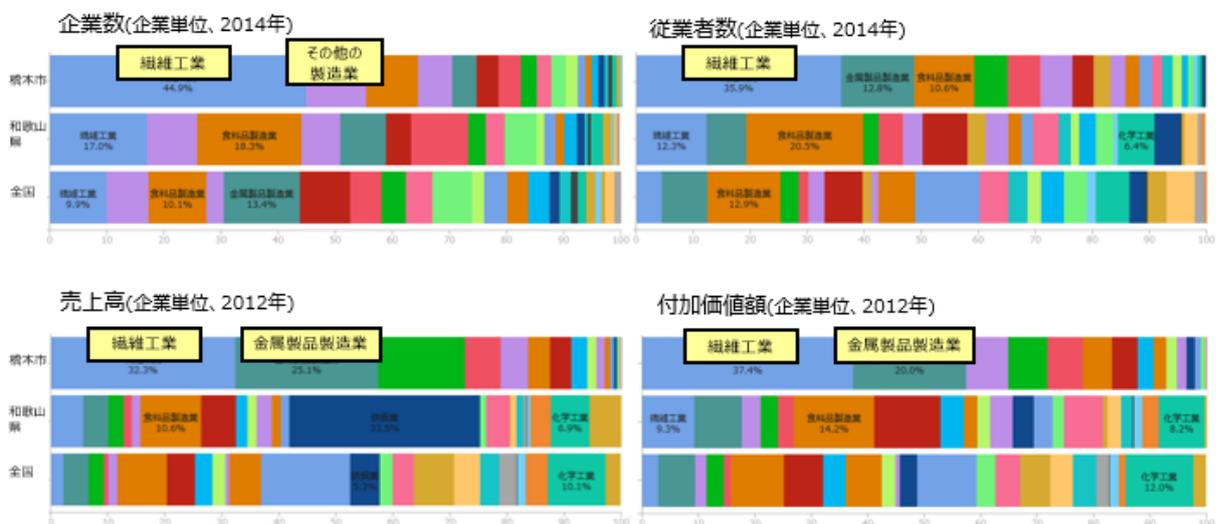
地場産業であるパイル織物産業は、高品質で様々な分野の素材に使用されているが、製造品出荷額、事業所数はピーク時に比べて大きく減少している。

- 「繊維工業」（パイル織物産業）は、橋本市の製造業の中で企業数、従業者数、売上高、付加価値額それぞれにおいて最もシェアが高く、特に付加価値額と従業者数に関する特化係数が高く、全国比較でも上位であることから競争優位と考えられる。
- 労働生産性の特化係数は付加価値額、従業者数に比べて低く、付加価値額を高めると同時に労働生産性の改善を図っていく必要がある。
- 影響力・感応度分析により他産業に与える影響力が大きく、かつ他産業から影響を受ける感応度の大きい産業であることを再確認。当該産業を支援する施策を実施することにより、他産業に影響を与え地域産業の活性化を目指す。
- 「繊維工業」（パイル織物産業）は生地素材としての販売スタイルが大半を占め、企業間取引の製品が主であることから、完成品として市場に出るときには産地ブランドの表記がなく、産地の認知度が専門分野にしか浸透していないことが課題。現在、パイル織物産業は、海外からの安価な輸入品の流入、消費者ニーズの多様化による市場の変化等により縮小を余儀なくされており、ブランド化による高付加価値商品の開発、用途開拓による新商品の開発、販路拡大支援などが必要。

(1) 製造業の構造 中分類

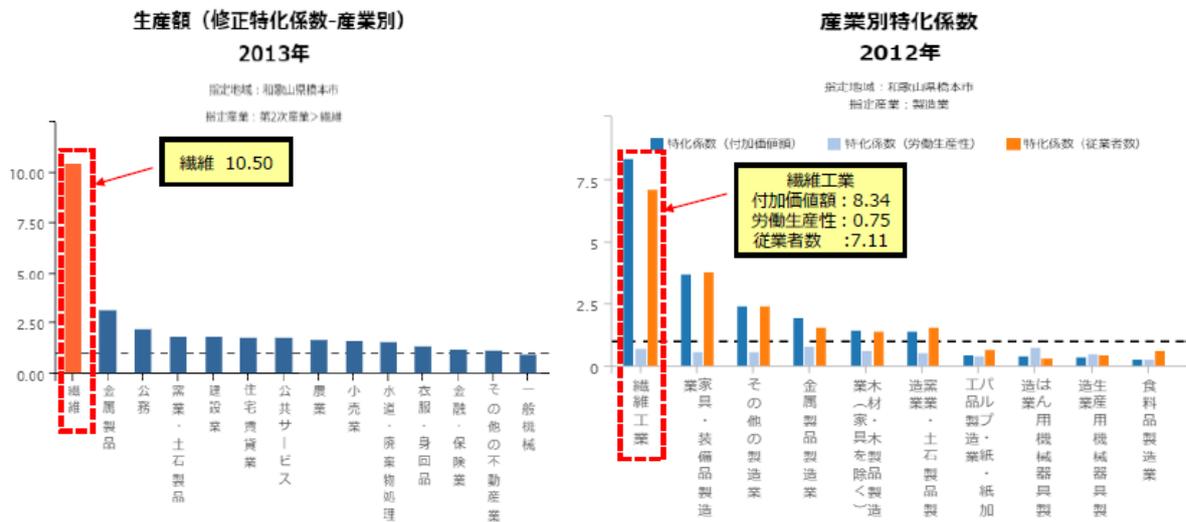


- 製造業を全国、和歌山県と比較（中分類）
- 「繊維工業」の割合が、企業数(44.9%)、従業者数(35.9%)、売上高(32.3%)、付加価値額(37.4%)といずれの観点からも割合が高くなっており、市内製造業の特徴を表していると言える。



(2) 特化係数 生産額修正特化係数と産業別特化係数（製造業）

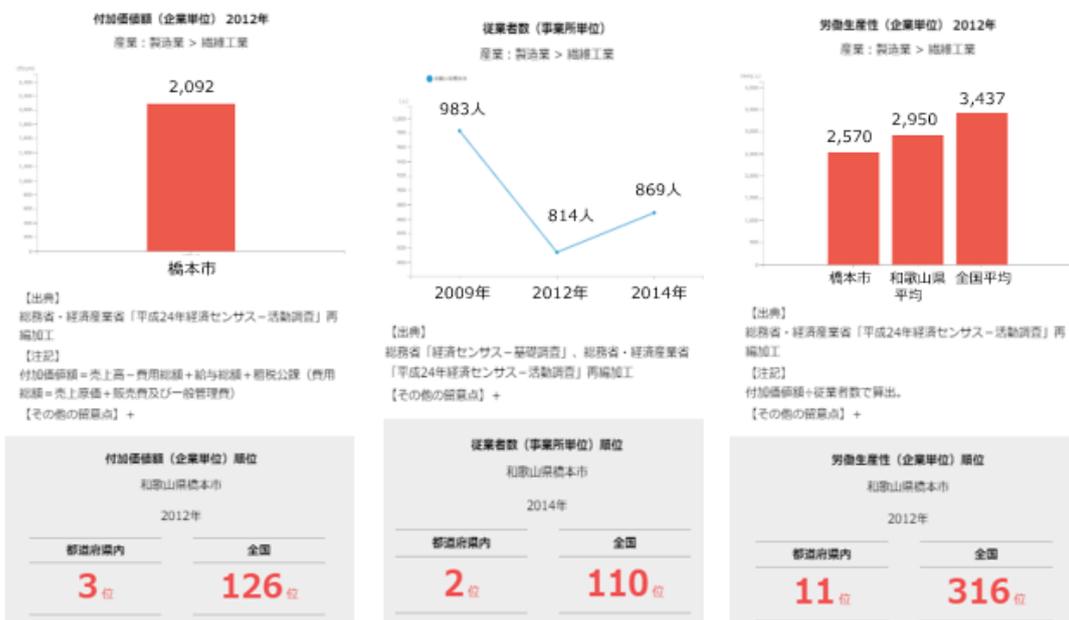
- 地域の特定産業の相対的な集積度（強み）を見る特化係数について
- 生産額の修正特化係数では繊維が10.50と突出している。 ※修正特化係数とは特化係数を輸出入額で調整したもの
- 付加価値額と従業者数の特化係数を見ると、「繊維産業」が製造業内で最も高く、橋本市において稼ぐ力と雇用吸収力の高い産業といえる（労働生産性は1以下となっている）。



出展：環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）
 総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

(3) 繊維工業について 他自治体との比較

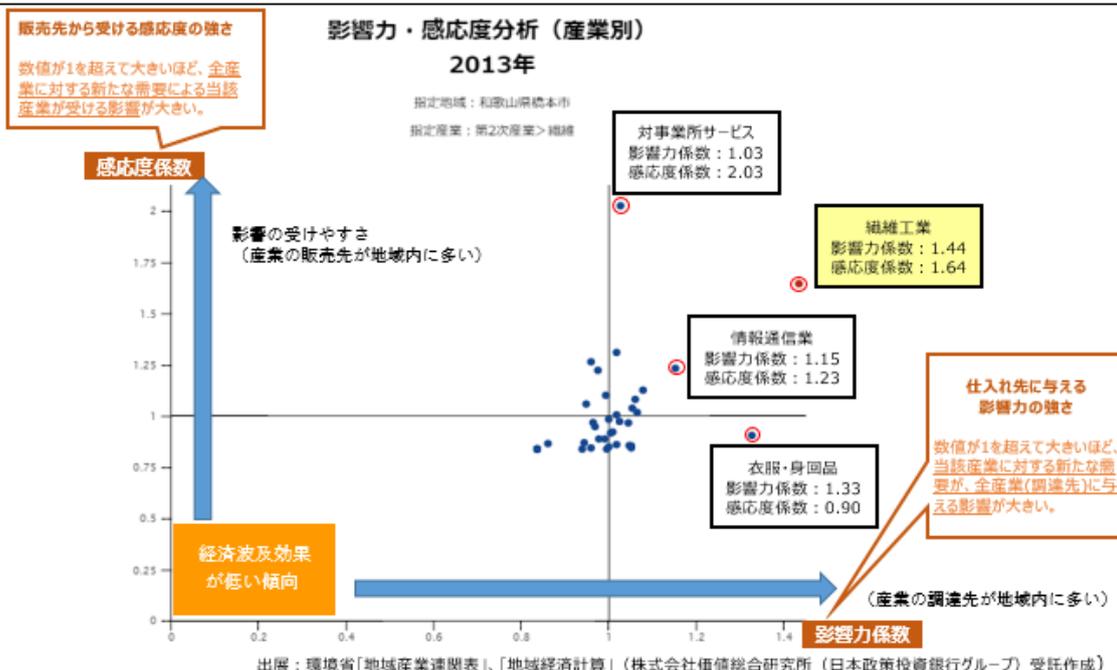
- 付加価値額と従業者数は比較的上位に位置するが、労働生産性は平均以下である。



出展：総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

(4)生産分析 影響力・感応度分析

➤ 「繊維工業」は影響力・感応度分析により他産業へ与える影響力が大きく、かつ影響を受ける感応度も大きい産業。



(5)分析を通じた政策立案 注力テーマの検討

区分	現状の特徴		将来の見込み	
	強み	弱み	機会	脅威
地場産業 (パイル織物産業)	<ul style="list-style-type: none"> ◆日本で唯一の総合パイルファブリック産地としての存在感(特化係数高い) ◆技術力を生かした産業資材分野への進出が成功 ◆産地の企業はそれぞれ得意分野への特化を強めている 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ブランド化、国内外の展示会や商談会に出展するも、依然知名度の向上に余地あり ◆人材不足のため、職人の高齢化に伴う技術伝承が課題 ◆委託生産が中心で受け身の商品開発 ◆商品によっては安定受注が困難 ◆中間資材の生産であり消費者への訴求力が弱い 	<ul style="list-style-type: none"> ◆機能性繊維の進化による活用方法の拡大 ◆趣向の変化や製造技術の発展による製品のライフサイクルの変化 ◆メイドインジャパンの再評価 	<ul style="list-style-type: none"> ◆安価な外国製製品の台頭 ◆パイル織物のイメージの変化 ◆レザー、他の織物への移行

注力テーマ

- ◆ 消費者の認知度向上と更なるブランド化の推進
- ◆ O E Mからオリジナル商品の開発
- ◆ 用途分野開拓による新商品開発
- ◆ 産地継続のための人材育成、設備の更新

■ 施策提案：

パイル織物事業者がそれぞれの得意分野を生かし、発展していくために以下の施策を提案。

「推進協議会の設立」「ブランド化戦略の見直し」「最終製品化の推進」

「パイル織物の用途展開」「補助金制度」

- 産地組合と橋本市が中心となり、高野口パイル産地メーカーや公設試、大学、金融機関等と「高野口パイル織物推進協議会（仮称）」を設立。
- 「KOYAGUCHI PILE」ブランドの更なる発展を目指すため、ブランド化戦略を見直す。具体的には協議会が地域ブランド推進にノウハウを持つ総合プロデューサーを採用するとともに、戦略見直しや新たな取組みの検討を行うことでプロモーション戦略を再検討する。
- 生地販売からステップアップし、付加価値の高い最終製品化を目指す。そのため最終製品の製造業者と連携するとともに、最終製品を手掛ける企業誘致に取り組むことで内製化を推進する。
- パイル織物の用途展開のため、企業等の各種展示会や見本市への出展を支援する。
- 地域企業を応援するための補助金制度を実施する。

④ 福井県永平寺町

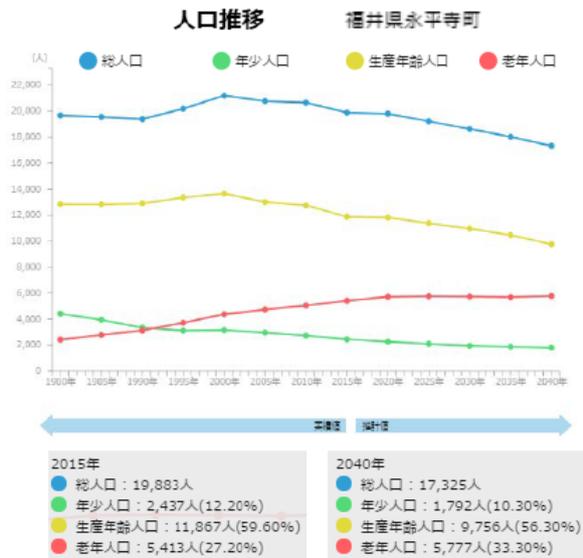
■ 現状分析

九頭竜川の名水、大本山永平寺といった地域資源に恵まれているが観光客数は横ばい。また、人口減少、高齢化が進んでいる。地場産業のうち最も比率の高い繊維工業の事業所数はピーク時に比べて大きく減少しているが、食料品製造業や飲料製造業（主に酒造）の事業所数には大きな変化がみられない。

- 総人口は2000年以降減少しており、今後は高齢化が進行する見込み。
- 産業構造からは「製造業」「卸売業、小売業」が主要産業といえる。
- 製造業の事業所数は「繊維工業」「食料品製造業」の2分野で半分以上を占めている。このうち繊維工業については事業所数減少が顕著となっている。
- 製造業の主要産業の労働生産性は比較的高水準となっている。
(特化係数は繊維工業：県内4位、全国139位 食料品製造業：県内1位、全国226位)
- 永平寺町に宿泊施設は少なく飲食店の付加価値額、労働生産性の特化係数も高くないが、周辺自治体（福井市、勝山市、鯖江市、あわら市、坂井市、越前町）を含めると観光地としての宿泊機能を備えており飲食店の労働生産性も高い。
- 曹洞宗の大本山「永平寺」には遠方から観光客が訪れている。

(1) 現状把握 地域全体の現状把握（人口）

- 総人口は2000年以降減少しており、今後は高齢化が進行する見込み。
- 人口減少の要因は、足もとでは自然減による影響が大きい。



自然増減・社会増減の推移(折れ線) 福井県永平寺町



【出典】
総務省「国勢調査」、国立社会政策・人口動態研究所「日本の地域別世帯総人口」
【注記】
2015年までは「国勢調査」のデータに基づく集計値、2020年以降は「国立社会政策・人口動態研究所」のデータ（平成28年3月公表）に基づく集計値。

(2) 現状把握 地域の産業構造の把握

- 大分類で全産業の付加価値額を見ると、「製造業」、「卸売業・小売業」の順で高い。
- 中分類で全産業の付加価値額を見ると、「学校教育」「繊維工業」「総合工事業」の順で高くなっている。

付加価値額（企業単位）大分類 2012年



付加価値額（企業単位）中分類 2012年

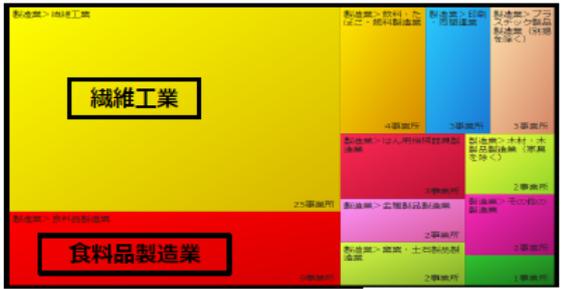


【出典】
総務省「経済センサス-基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

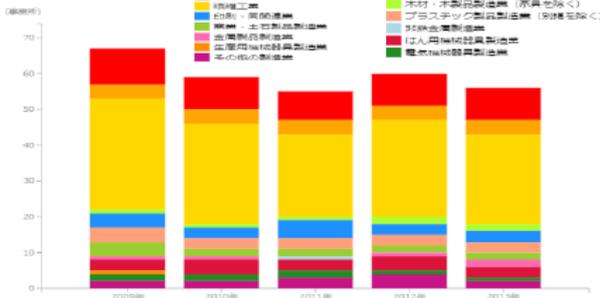
(3) 現状把握 地域産業の現状把握 ①

- 製造業の事業所数は、「繊維工業」「食品製造業」が半分以上を占める。
- 繊維工業の事業所数減少が顕著になっている。

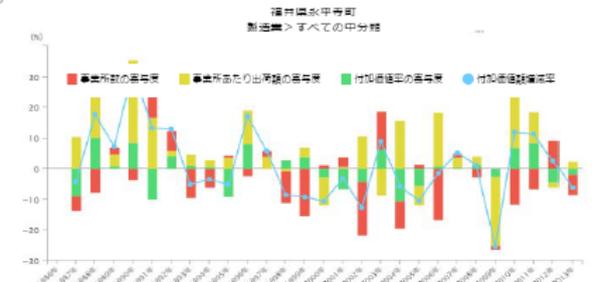
2013年 事業所数(実数) 製造業>すべての中分類
福井県永平寺町



事業所数(実数)の推移



付加価値額増減率の要因分析

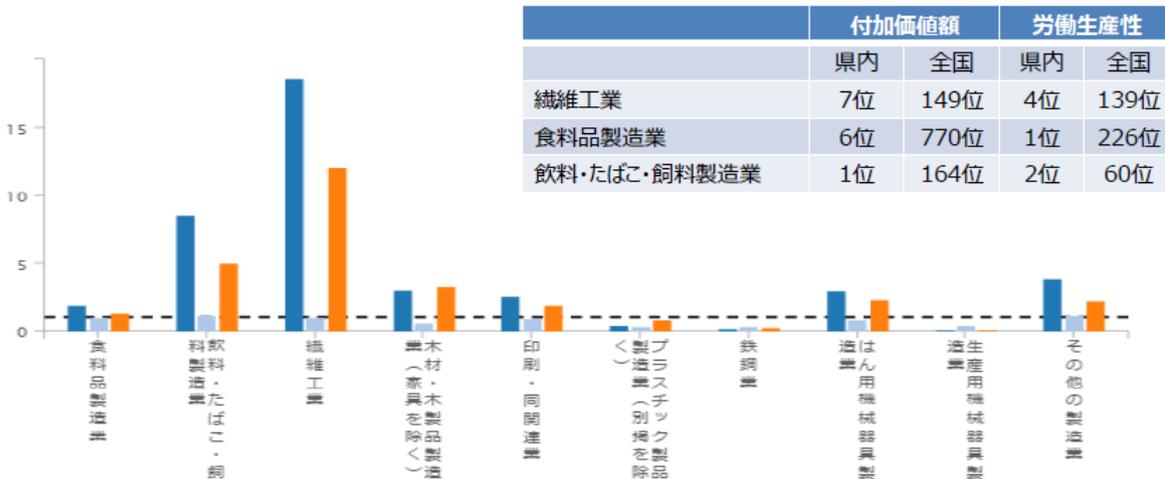


(3) 現状把握 地域産業の現状把握 ②

- 製造業については主要産業の労働生産性は比較的高水準で効率的な経営を行っている。

産業別特化係数 指定地域：福井県永平寺町
指定産業：製造業

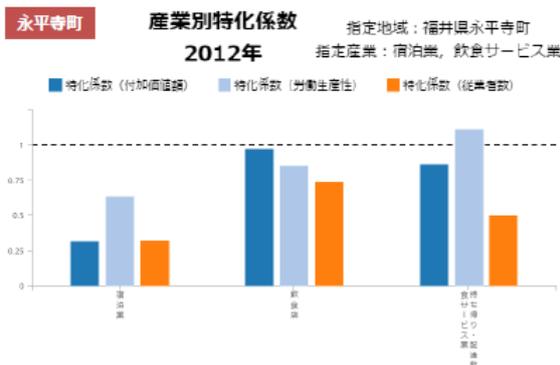
■ 特化係数(付加価値額) ■ 特化係数(労働生産性) ■ 特化係数(従業員数)



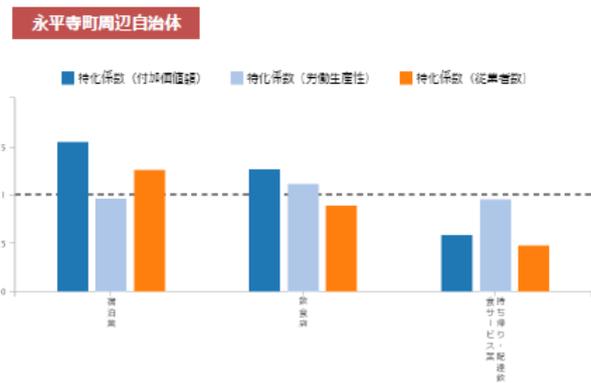
【出典】 総務省、経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」再編加工

(3) 現状把握 地域産業の現状把握 ③

○永平寺町に宿泊施設は少なく飲食店の付加価値額のウェイト、労働生産性も高くはないものの、周辺自治体を含めると観光地としての宿泊機能を備えており、飲食業の労働生産性は高い。
周遊型観光の拠点のひとつとして観光客を取り込める要素は十分に持っている。



	付加価値額		労働生産性	
	県内	全国	県内	全国
宿泊業	16位	1147位	10位	758位
飲食店	12位	982位	10位	863位
持ち帰り・配達飲食サービス業	10位	733位	4位	220位



指定地域：福井県永平寺町、福井県福井市、福井県勝山市、福井県鯖江市、福井県あわら市、福井県坂井市、福井県越前町

【出典】
総務省・経済産業省「平成24年経済センサス活動調査」再編加工

- 施策提案：「酒造り体験を核とした見学施設の建設」「廃線跡地への自動走行車両導入」
地域の中核企業（酒造業）が伝統的な醗酵技術を活用した見学施設の建設を計画している。町としては観光客取り込みなど地域への波及効果が見込まれる取組みとして支援していく計画であり、今回、永平寺町の産業構造分析により町の支援計画の妥当性を検証するとともに、周辺自治体の観光資源における人の流れ分析により周遊型観光の具体的施策を検討。
- 地域牽引事業者に対する設備投資促進、固定資産税減免のための条例改正、および酒造業を中心とした醗酵技術のブランド化を推進することで、地域への経済波及効果、生産年齢人口流出抑制のための雇用政策、観光客の滞在時間増加などにつなげていく。
- 旧京福電鉄永平寺線跡の遊歩道に自動走行車両（カート）を導入し産官学金連携による周遊型観光ツアーの提案や企画、大手企業のサテライトオフィスの積極的誘致を行うことで、観光客数増加による宿泊施設の増加、観光ルートの国内外へのPRにつなげていく。

3. 議論の内容

《湖南省》

- ・湖南省では、農業が生産額に占める比率は小さい。しかし、農業は、食料品関連企業の集積を活かした6次産業化推進による水稲作中心からの脱却という主目的に加え、工業団地勤務者の高齢化に伴う生きがい作り、障がい者の就労先にもなるなど、産業構造では把握できない多角的な側面がある。このため、農業に関する施策を打ち出した。
- ・製造業については、阪神工業地帯から移転してきた企業及び地元のオーナー企業も含め、U I J ターン者向けの企業説明会、企業紹介イベント、そのイベント内でのものづくり教室など、官民協働の体制が整っている。今後の課題は、リードタイム短縮につながる内陸での物流拠点の整備で、地域の稼ぐ力を継続させるために有効な施策と考えられる。
- ・地域経済の稼ぐ力の好循環に向けた取組として、市内全体のスマート化を図るため地域の企業と共同出資し、新電力会社を設立した。これにより、電力料金の削減を実現するとともに、売上を保育園の省エネ型エアコン購入などのまちづくりに還元している。先日の株主総会で市の出資を30%から50%に引上げ副市長が代表取締役役に就任しており、地域エネルギー政策に事業計画をリンクできるようになった。また域外資本の大型家電量販店等にも商工会の一員として地域経済牽引支援機関への協力をお願いしている。

《王寺町》

- ・JRの用地が活用可能となったとしても、駅前を誰がどのように開発していくかなど検討課題が多い。また、本件のような大規模再開発のプラットフォームを町単独で作るのは難しい。
- ・RESAS分析において創業比率が高い理由については、詳細なデータで把握しているわけではないが、駅前で若者が起業する動きはある。店舗兼住宅において廃業後も住まいとなっており賃借が進まない物件が目につく。地域活性化の妨げになることから、改修費用の支援等を行うことで地域の活性化に繋がると考えられる。

《橋本市》

- ・橋本市のパイル織物は医療用、工業用などの新しい用途開発の可能性を秘め、また化粧ポーチなど小物・雑貨製品の開発で高付加価値化も期待できる。
- ・ブランド力向上のためには、まず一定数量の生産を確保することにより安定的なマネジメントと生産性の向上を図ること、さらには、業界をリードできるような存在になることが重要。
- ・パイル織物産業以外に官民協働で取り組んでいる施策としては、自家用以外では栽培を中止し

ていた地場野菜「はたごんぼ」を農機メーカーと協働して復活させた。この取組は、地場産品を通じた地域活性化を目指す取組みとして県から賞を受賞するなど評価されている。

《永平寺町》

- ・酒造はデータ面からも地域の中核産業であり、地域経済を牽引する業種である。やる気のある民間企業に対する支援を検討するなかで、地域未来投資促進法を活用し民間企業の新たな取組を支援することが地域経済活性化に大きく寄与すると判断した。このことから、酒造メーカーの取組を支援することにした。
- ・地域の中核産業への支援においては、行政が積極的かつスピード感をもって取り組むことが重要と考えている。そこで官民協働で、まちづくり・観光といった諸施策に取り組み、地域のにぎわい創出につなげていく。

《その他》

- 地域で企業誘致、設備投資を進めていく中で大きな問題は人材不足。足りない部分を外国人に求めるという考え方もあるが東アジア全体が高齢化に直面しており、取り合いになるのは日本人と同じ。裏を返せば高卒者の就業を域内で吸収できていないというのは誘致先としては魅力のあること。
- 技術革新のスピードが速く消費行動も都度変化する。世の中の変化の少し先を行く行動をすることが重要である。
- 何が自社の強みで、その値段で買ってもらえるのはなぜか、それを分析するのが行動の基本。観光であれば呼び込みたい層にいかに関心地のいい空間を提供できるかが鍵で、インバウンドであればベジタリアンに提供する食事、高齢者であればゆっくり休めるところなど。これらは話題にはよくのぼるが一向に改善されない。
- 人の感覚を何とか数値化できないか。「きれい」「すばらしい」といった感覚をもとに政策に取り組むことができる。

以 上